

資源循環型社会の形成を提案



森林・林業の情報発信基地

「天童市森林情報館
「もり」な天童」

増川 一臣

毎日新聞が今年の四月二十九日付け朝刊（「特集・きょうはみどりの日」）で報じているように、地球温暖化の抑制は待ったなしの状況にある。地球温暖化の主要因である二酸化炭素の濃度は、十八世紀の産業革命前は二八ppmであつたものが、現在では三五%増の三七九ppmに上昇している。何の対策も取らなければ百年後には現在の二倍の七〇〇ppmまで増加するとの試算もある。このような状況になれば異常気象の発生はもろろん、気温や海面の上昇といった変化を引き起こし、二一〇〇年には気温が一・四〜五・八度、海面が九〜八センチ上昇すると予想されている。当然、生態系も大きく変わるようになる。

一九九七年に取り決められた「京都議定書」では、日本の温室効果ガスの削減目標が一九九〇年比で六%と定められた。しかし、現実には削減どころか増加している。そのため、二酸化炭素温室効果ガスの削減に大きく寄与する森林の二酸化炭素吸収力に大きな期待が寄

せられている。日本の森林の二酸化炭素の吸収量は年間九、七〇万トンあり、約二億人分の呼吸量を吸収しているという試算がある。成長がおう盛な森林ほど二酸化炭素の吸収力があり、成長のピークが過ぎた森林は伐採して木材として利用し、再び植林や天然更新を促して若返らせる。このような林業のリサイクルを持続させることができれば、より効果的に二酸化炭素を吸収することができるのである。

一方、国内の森林・林業を取り巻く情勢に目をやると、国産材利用の中心である建築用材等への利用状況が、一九六七年の年間五、二七四・二万立方メートルをピークに年々減少し、二〇〇二年には一、六〇七・五万立方メートルとピーク時の三〇・五%に落ち込み、自給率も一八・二%となつている。また、スギの山元立木価格の推移を見てみると、一九八〇年に一立方メートル当たり二万二千七百七円であつたものが、二〇〇二年には四千八百一円となり、ピーク時の二一・二%まで落ち込んでいる。このため、立

木一立方メートルを売却して雇用できる山林労働者は大幅に落ち込み、一九六一年に一一・八人雇用できたものが、一九七五年には一・八人、二〇〇二年には〇・四人となり、六十年、七十年間育てたスギの木一立方メートルで〇・五人も雇用できないのが現状である。

このように、森林の経済的価値は喪失すると共に、放置状態の森林が急激に広がり、森林の多面的機能である水源かん養や土砂崩壊防止、土砂流出防止等の機能低下が懸念されている。森林保全のためにも、国産材の需要を喚起し、森林の経済的価値を復権させる取り組みが必要になつてくる。

こうした現状を踏まえ、天童市はまず地域の森林・林業を活性化するためにも地域材の利用を促すことが肝要であるとの認識に立ち、地域材を利用した公共施設の整備に着手した。二〇〇一年度と二〇〇二年度には、それぞれ天童北部、天童南部両多目的交流センターを相次いで建設し、両施設を合わせて五〇八立方メートルの県産材を使用した。さらに、二



5月に「もり～な天童」で開催された「春の野草展」の様

〇〇三年度には第三弾として天童市森林情報館「もり～な天童」を建設。使用材積一五五立方メートルのうち、実に九〇％を県産スギ材でまかなうなど、ふんだんに県産スギ材を使用して県産材の地産地消を実現すると共に、木のぬくもりを肌で感じられるように工夫するなど、木造の良さを体感するには十分の施設となっている。

また「もり～な天童」館内の暖房は、今注目されているバイオマスエネルギーの木質ペレットを使用したボイラーを設置している。

製材工場等から排出される端材や樹皮等はこれまで産業廃棄物として処理されてきたが、これら木材資源をエネルギー源として有効利用することで化石燃料の使用量を削減し、地球温暖化の抑制に貢献すると共に、意識の啓発を図ることができる。こうした取り組みは県内の公共施設では第一号であり、年間五〇トンに及ぶペレット使用量は県内最大級である。まさに、資源循環型社会を先取りした最先端の施設である。

当館は森林の現状や森林の公益的機能の重要性を幅広く情報発信する役目を担っている。森林整備と共に地域の木材利用の必要性を一人でも多くの方々に理解していただきながら、健全な森林を次世代へ継承すると共に、資源循環型社会の形成に資することを目的としている。その目的を達成するためには、森林および林産物等をキーワードにした各種イベントや展示会等を随時開催し、より多くの方々に当館を訪れていただく機会を設けることが重要であると考えている。去る五月には、

協働団体のご理解により、開館事業に併せて押し花体験教室や春の野草展（写真参照）を開催し、大いににぎわったところである。また、館内には森林の働きや育林の必要性、木材の活用等に関するパネルを常設展示しているほか、各種木工品、石付き山野草、押し花作品等を適宜入れ替えながら展示・紹介もしている。

今後は、夏休み企画として「ハイキング市内名水めぐり」や趣向を凝らした木工教室など、小中学生を対象にしたイベントを開催する予定となっている。また、八月にはペレットストーブの展示・実演会、つる細工教室を

開催するのをはじめ、秋には、公募による「美しい森・林の写真展」の開催を予定しているなど、計画的に催し物を仕組んでいくこととしている。

天童市の森林面積は約三、八〇〇ヘクタール（林野率三三・六％）であり、県内においても下位にある。このため、なぜ森林情報館か、という考えを持たれる方もあるかと思うが、都市部であるが故に二酸化炭素の排出量も多く、だからこそ率先して取り組むところに意義がある。森林・林業をテーマに市内外から多くの人が「集い」「学び」「創る」場を提供し、資源循環型社会を形成する布石にしたいものと考えている。

二十一世紀は環境の時代と言われている。わたしたち一人ひとりが森林と環境保全のかわりを理解し、この緑豊かな県土を守っていく意識を持つことが重要である。

引用・参考文献

- 「平成十五年度森林・林業白書」林野庁
- 「地球と森林」全国林業改良普及協会編

増川 一臣 (ますかわ・かずしげ)

山形県林業技術職員を経て2004年4月から天童市森林情報館「もり～な天童」勤務。その間、森林計画編成、林業技術普及指導、林政業務等に携わり、「山形県みどりを育てる女性の会」の創立、「最上広域森林組合」の設立を手がける。

連絡先：
天童市大字貫津2551番地
「鎌ノ町わくわくランド」内
TEL 023-651-2002